



綾部陣屋

九鬼氏ゆかりのまち



陣屋跡に建つ大本長生殿と綾部小学校

「綾部陣屋」は初代綾部藩主・九鬼隆季によって築られました。九鬼隆季は、志摩国鳥羽藩主・九鬼守隆の三男で、五男・久隆との家督相続争いの末、幕府の裁定により綾部二万石を与えられ、この地を治めることになりました。寛永11(1634)年に綾部に入部した隆季は、当初由良川沿いの下市場(現・綾部高校由良川キャンパス付近)に陣屋を築きました。安4(1651)年に上野の地に新たに陣屋を築きました。

新たな陣屋は、藩主の居館である御殿を現在の大本長生殿付近に建築し、上野町一带に武家屋敷を配置。田町・本町などを町家として城下町を形成しました。隆季は弟の隆重に五百石を分知し、綾部藩はこの陣屋を政庁に一万九千五百石として、明治維新まで続きました。



京都府立綾部高等学校由良川キャンパス
最初に陣屋を築いた場所。



綾部市立綾部小学校
陣屋の外郭部にあたるとされる場所。



大本長生殿
陣屋の内郭部にあたるとされる場所。
現在は大本本部の長生殿が建てられている

【綾部藩ゆかりの地を巡るツアー】

九鬼水軍の太鼓(綾部太鼓)を打つ観光ガイドの石原さんおすすめコース



観光ガイド 石原信明さん

行程表 ~大本駐車場スタート~

場所はMAP参照

1. 綾部陣屋跡(大本長生殿)

綾部陣屋の跡に建つ長生殿は、20世紀有数の木造建築物と言われている

2. 武家屋敷跡(綾機平)

70~80棟の武家屋敷が軒を連ね、約200人の藩士と、その家族らが暮らしていた



3. 若宮神社(九鬼家の信仰が深い)

境内に藩祖(初代藩主)隆季を祀る九鬼霊社がある

5. 田町の坂(陣屋と城下町をつなぐ道)

この坂を上って年貢米をお城に納める様子が綾部踊りのモデルとなった



4. 隆興寺(九鬼家菩提寺)

江戸時代に綾部藩2万石の領主であった九鬼家の菩提寺として1632年に開創。代々の藩主の帰依を受けて、藩内の臨濟宗寺院数ヶ寺を末寺に持つなど栄えた。境内には、同家代々の墓所をはじめ、隆季が伏見稲荷大社(京都市伏見区)から特別に遷宮を許された稲荷神社などがあり、往時の綾部藩を偲ばせる



九鬼家の奥津城の配置図
奥津城(おくつぎ)とは神道の墓所のこと

8. 熊野新宮神社(綾部藩主により遷座)

綾部藩主により由良川河畔から市内の中心(現在地)に遷座。以降、手厚い庇護を受けた

7. 扇屋宅(豪商屋敷)

種油、味噌、醤油の商いで財を成した「扇屋重兵衛」は綾部藩への財政支援を生涯続けた

6. 本町通り(城下町の幹線)

城下町の中心街道。西町とともに市内随一の商家が続き栄えた

9. 正暦寺(綾部藩祈願寺)

隆季が入部して以来、九鬼家の祈願寺に。現在の伽藍(山門・本堂・庫裏・鎮守堂など)は、九鬼家の庇護によって江戸時代後期に整えられた。参勤交代の安全祈願に信仰されていた「不動明王立像」や、9代藩主・隆都の3番目の正室(再々室)として嫁いだ邦姫が乗ってきたとされる「駕籠」も寄進されている



不動明王立像



駕籠の内部には梅や鶴などの図柄が施され、天井には草花が描かれている



九鬼氏ゆかりのまち
綾部陣屋
訪陣記念
令和 年月 日

綾部陣屋御城印 300円
初代綾部藩主・九鬼隆季によって築かれた陣屋。「左三つ巴」の家紋と綾部の市花である「梅」をあしらったデザインになっています。訪陣記念におすすめです。
☆あやべ観光案内所にて販売しています

発行・お問い合わせ
綾部市観光協会
綾部市駅前通り東石ヶ坪11-4(あやべ観光案内所内)
TEL:0773-42-9550 FAX:0773-42-8514
メール:info@ayabe-kankou.net

内郭部…城の中心となる区画で、領主の住居や主要な執務空間が置かれた
外郭部…内郭部の外側を囲む区画で、家臣の住居や倉庫、防衛施設などが置かれた

綾部陣屋

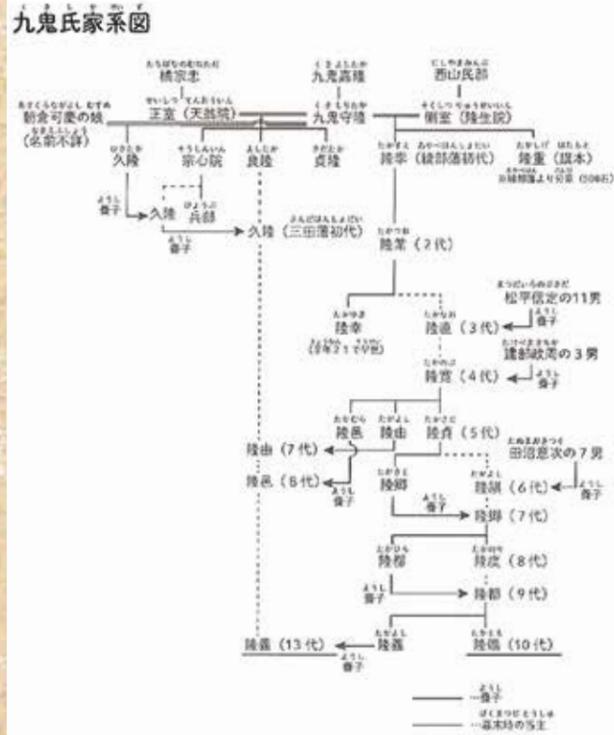
【信長や秀吉に仕えた戦国大名・九鬼氏】

九鬼氏は、南北朝時代から安土桃山時代にかけ、志摩国・伊勢国を中心に勢力を振った豪族です。特に11代当主・九鬼嘉隆は、織田信長や豊臣秀吉の下で水軍大将として活躍。3万5000石の禄を得て鳥羽藩祖となり、文禄3(1594)年に鳥羽城(三重県鳥羽市)を築きました。



九鬼嘉隆像(鳥羽市常安寺蔵)

慶長2(1597)年には嘉隆の子・守隆が家督を継承します。その後、同5(1600)年の関ヶ原の戦いでは、嘉隆が西軍、守隆が東軍に分かれて参戦。敗れた西軍側についた嘉隆は、自害してその生涯を終えました。



(参考文献)「寛政重修諸家譜」「綾部市史」上巻ほか



至舞鶴

至京丹波

【九鬼水軍】

綾部に入部以前の戦国時代、九鬼氏は伊勢・志摩(三重県)を拠点とする九鬼水軍として知られていました。隆季の祖父である九鬼嘉隆は九鬼水軍を率い、織田信長に仕えて頭角を現し志摩国の統一を果たすとともに、更に伊勢湾から畿内にかけての制海権を担いました。特に、全国に信者を擁する一大宗教勢力だった大坂本願寺や、毛利輝元に組して瀬戸内海を支配した村上水軍との戦いは有名です。

第一次木津川口の戦い(1576年)では毛利・村上水軍に敗北したものの、信長の命令で嘉隆が鉄甲船を建造した第二次木津川口の戦い(1578年)で勝利。織田方が制海権を握る決定打となりました。その後、豊臣政権下でも水軍の中核を担い続け、小田原征伐(1590年)で北条攻めに参戦したほか、朝鮮出兵(文禄の役=1592年)などでも活躍しました。九鬼嘉隆は、こうした経歴とその勢威から江戸時代には軍記物などで海賊大名とも称されています。



出典:「九鬼大隅守船隊之図」
大阪城天守閣蔵(Wikimedia Commons 掲載画像より)

【鳥羽から綾部と三田へ】

九鬼守隆には正室の子・良隆がいましたが病弱で家督相続を辞退。後継者と目された次男・貞隆も24歳で病死したことで、寛永9(1632)年に御家騒動が勃発します。守隆がまず声をかけたのは側室の子である三男・隆季でした。一方で、守隆庶子五男・久隆を良隆の養子とし、正当な後継者としたことで、九鬼家中は隆季派と久隆派に分裂しました。守隆は最終的に後継者を久隆とし、隆季に1万石を分知することで決定を下しました。

しかし、直後に守隆が没し、九鬼家臣団が御家騒動を再燃させたことにより、ついに江戸幕府が介入する事態に。その結果、久隆は三田へ、隆季には綾部が与えられ、内陸へ移された九鬼氏の水軍は終焉を迎えました。



【綾部太鼓】

約390年の歴史を持つ「綾部太鼓」は九鬼水軍の陣太鼓がルーツとされ、初代綾部藩主・九鬼隆季が伝えたと言われています。俗に親子太鼓とも呼ばれ、大拍子・子拍子を2本のバチで打ち鳴らし、互いの調子を合わせて盛り上げ躍動する音が特徴。戦場の太鼓を打ち士気を鼓舞したことが想像できます。現在は「あやべ太鼓保存会」が受け継ぎ、イベントや式典などで披露されています。



【綾部踊り】

九鬼隆季が綾部太鼓とともにもたらしたと言われている「綾部踊り」。踊りの動作は、農民が坂の上にあった陣屋に年貢米を治める姿を表していると言われています。庶民の中で育まれた綾部踊りは囃し言葉の「ヤシトコ、ヤシトコ、ヤシトコセー」からヤシトコ踊りと呼ばれることも。現在は「綾部踊り保存会」が受け継ぎ、8月のお盆の時期に「あやべ盆おどり大会」を開催しています。

